

普天間飛行場におけるF15ジェット 戦闘機飛来に対する抗議声明

10月5日、午後2時00分頃と2時10分頃、普天間飛行場において嘉手納所属のF15ジェット戦闘機2機によるローアプローチ飛行を2度確認し、上大謝名地区で123.6デシベルの騒音を測定した。これは過去5年間の最大値となっている。

本市は、9月21日夕方、沖縄防衛局より米軍文書の写し「10月から行われる嘉手納基地滑走路改修工事に伴う普天間飛行場へのダイバートについて」をFAXで受理した。

普天間飛行場は、日本の航空法が適用されず、また米軍の安全基準も遵守されないまま危険な運用がされている。そのような危険な普天間飛行場を18ヶ月間もの長期間、嘉手納所属機までが使用することは、普天間飛行場周辺住民への更なる騒音被害や墜落の危険性の増加に繋がることから、本市は嘉手納基地の滑走路改修工事に伴う普天間飛行場の使用を一切禁止するよう、9月22日と24日、米軍や沖縄防衛局、外務省沖縄事務所に対し抗議・要請を行ったところである。

抗議・要請を行った際、米軍からは、「緊急時のみダイバートがなされるものであり、嘉手納では通常の訓練が行われ、ダイバートが行われぬよう極力最大限の努力をする。」との回答を受けた。

今回のローアプローチ飛行は、米軍からの回答に相反するものであり、嘉手納所属機による普天間飛行場使用の常態化に繋がりに容認できるものではない。

10月5日、本市が設置している基地被害110番には、琉大病院へ通院している市民から「昨年より騒音が酷くなっている。命に関わる問題である。」との悲痛な声が寄せられている。

また、騒音測定器の日報によるとダイバート訓練が行われた9月22日から10月5日までの間、100デシベル以上の騒音を27回測定しており、ダイバート訓練実施前の9月1日から9月21日までの3回と比べ飛躍的に増加している。

本市は、市民の生命と財産、生活環境を守る立場から、10月5日、F15ジェット戦闘機2機による普天間飛行場の使用に対し強く抗議するとともに、普天間飛行場の更なる危険性と騒音の増加に繋がる嘉手納基地の滑走路改修工事に伴う普天間飛行場の使用を一切禁止するよう抗議する。

2010年10月 7日
宜野湾市長 伊波 洋一